

外出自粛でもつながりは失わない

～『新しい「ツナガリ」プロジェクト』を開始（大阪府・阪南市社協）

阪南市社協では、外出自粛が長期化するなか、高齢者等が孤立しつながりを失わないよう、『新しい「ツナガリ」プロジェクト』を開始しました。

その第一弾として、4月末には、市の災害時要援護者登録「くらしの安心ダイヤル事業」に登録されている1416人（ひとり暮らし高齢者など）を対象に、「つながりニュースレター」を作成して送付しました。ニュースレターには、家でできる体操の手引きやテイクアウトのお店リストなど役立つ情報が掲載されています。また、ニュースレターには往復はがきを同封しました。家にこもる生活の中で気持ちが落ち込んでいないか、体調の変化、外出頻度、などをお聞きし、自粛下の高齢者等の実態を把握します。「コロナ撃退ユニーク川柳」も募集し、家からでも“参加”できる企画もあります。ニュースレターの封入作業はコロナで減収している障がい者授産施設に依頼。皆さんが張り切って作業してくれました。

市内で高齢者宅の訪問や地域の清掃イベント等で活躍している「子ども福祉委員」からも、「お手紙で元気づけてあげたい！」などのアイデアも出ており、接触せずにつながり続ける新たなツナガリの形が生まれつつあります。



大阪府・阪南市社協 https://www.hannanshi-shakyo.jp/slug_info/3589/

宅食便で生活が苦しい子育て世帯を支援（宮崎県三股町社協）

三股町社会福祉協議会では、平成30年から、町内の社会福祉法人、ボランティア、社協等が連携し、生計が苦しい子育て世帯に無料で食品を届ける「みまたん宅食どうぞ便」をスタート。米や野菜、みそなど、農家から譲り受けたり企業等からの寄付により集まった食品をスマホやパソコンで登録した家庭に毎月1回、10食分を届け、利用者とは無料通信アプリLINE（ライン）でやりとりしています。窓口に行ったり書類を書いたりする必要はなく、スマートフォンから簡単に申し込みができるので、子育て中の年代の人たちにも利用しやすい仕組みになっています。

新型コロナウイルス感染拡大により、子ども食堂も活動がしづらい中、戸別配達の強みを生かし、食品を届けるボランティアの衛生管理を徹底して活動を続けています。学校の休校が始まった3月上旬は、

給食センターから譲り受けた野菜を配りました。

配達の際には、感染拡大による暮らしへの影響なども聞き取りしており、子どもの様子の変化や支援の必要性に早めに気づくことができます。



みまたん宅食どうぞ便 <https://mimata-douzo.com/index.html>

会話や声のトーンでその人の暮らしを推し量る 民生委員 明石雅世さん(愛知県名古屋市中区)

明石雅世さんは、名古屋市中区葵学区石神本町で民生委員を務めています。石神本町には、一人暮らしの65歳以上の方が20人、高齢者のみ世帯が3世帯住んでいますが、緊急事態宣言の発令から訪問を自粛するよう通達を受け、顔を合わせて話をする機会がなくなりました。

明石さんは、ポストに手紙を投函して訪問できない旨を伝えましたが、「それだけでは心配」と電話をかけて、心配ごとなどを聞き取りました。すると、一人暮らしの方からは、外出制限が出るなかでの工夫した暮らしを教えてもらったり、顔が見えなくても声のトーンでその人の暮らしを推し量ることができたと云います。

新型コロナウイルスに関する詐欺のニュースを耳にするたび、町内の対象者が被害に遭わないかという不安がある、と明石さん。そこで、ニュースレターを作成して、配布しています。「デザインを工夫し、多くの人の目に留まるように」と意気込みを語ってくれました。

